

令和3年度 学校評価シート

学校名： 県立神島高等学校

学校長名： 山本 直樹

めざす学校像 育てたい生徒像	自主自立の精神を持って豊かな社会を構築しようとする生徒を育成するとともに自らの資質、能力、可能性を最大限に伸ばし、将来の生き方を探求できる心身ともに逞しい生徒を育成する。普通科教育、専門教育において保護者、地域の期待に応えられる学校づくりを行う。
-------------------	---

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 進学においても、就職においても、地域から信頼される教育の充実 防災活動において、自助・共助の意識の向上 地域に愛着を持ち、地域のために活躍しようとする生徒の育成
--------	--

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1	学習習慣の確立と自己実現に向けた進路指導
	2	基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成
	3	防災活動や各種行事を通じた地域との連携
	4	学校行事や部活動の主体的な取り組みを通じた学校の活性化

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	学校運営協議会および本校ホームページ掲載等で公表する。
--------------------	-----------------------------

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (2月8日現在)		
重点目標					評価項目の達成状況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	達成度	次年度への課題と改善方策	
1	高い目標を持って最後まで学習に取り組める生徒が増加し、検定資格取得者も多い。希望企業への就職内定率も非常に高い。一方、学習習慣が欠如した生徒もかなりいる。家庭学習の習慣が弱く主体的な学習姿勢の低さが課題である。	生徒の主体的な学びを引き出すための授業改善が行われているか。 自己実現に挑戦する意欲を向上させているか。	研究授業や公開授業の実施。	研究授業の実施や授業の相互見学の回数。	B	組織的・継続的に授業改善に取り組む体制づくりが必要である。 明確な目標設定ができる検定については、次年度も授業・補習等でサポートを充実させ、進学や就職に活かす。 国公立や難関私大という高い目標を持って努力する生徒への学力保証の充実を図る。	
			簿記検定、英語検定、漢字検定などの資格取得を促す。	検定や資格の取得者数。			1人1台パソコンの導入により、ICTを用いた授業についての研究が進んだ。今後も研修を行うなどして取り組みを進めていきたい。 検定1級3種目以上合格者は19名である。(昨年18名) 大学入学共通テストには24名が出願し、17名が受験した。公務員合格は9名である。
			進路LHR・ガイダンス、補習、模擬面接等を通して進路意識の向上を図り、進路実現のためのきめ細やかな指導を行う。	共通テストまで学習に取り組む生徒数や志望校合格者の増加、就職内定率の向上。			
2	生徒は落ち着いた学校生活を送っている。指導件数も少ないが、身だしなみやマナー、交通安全への意識が不十分な生徒もいる。 課題を抱えた生徒や人間関係の構築が苦手な生徒への支援が必要である。	身だしなみ、礼儀や基本的生活習慣がきちんと確率されているか。 学校生活全体を通して個々の生徒の様子を観察、支援できているか。	校門指導、身だしなみアセンブリー、交通指導の実施。	違反生徒や指導件数。	A	職員全体で情報を共有し指導する体制を引き続き維持する。いじめ未然防止対策を十分とると共に、生徒の学校生活全般を丁寧に観察し、迅速に対応する。 生徒支援委員会の効果的な運用で、学校全体で指導する体制を堅持する。カウンセラーやスクールワーカーとの連携は必須である。	
			いじめやQUアンケートの実施や生徒情報の交換や共有。	いじめ事案等の未然防止や早期発見・対応、解決ができたか。			生徒指導件数は、昨年2件(2名)に対し、今年は5件(6名)となった。 教育支援委員会を適宜開催し、カウンセラーや職員との連携を図って、生徒の情報共有や支援を行い、アンケートによって人間関係の把握に努めることで、迅速で的確な対応ができた。今年度はSNSに関わる相談が多かった。
			特別支援教育コーディネーターや教育相談・カウンセラー、各職員との連携。	情報が共有され、十分な連携が図られたか。			
3	地震、津波、火災発生時に備えた避難訓練を年3回実施しているが、地域と連携した取り組みには至っていない。 「神島屋」などを中心に、地域と連携した各種取組が充実してきている。ただ、その運営での教員の負担が課題である。	避難訓練が地域と連携したものになっているか。 地域理解が深まり、より多くの方々と連携した取り組みとなったか。 担当教員の負担。	避難訓練実施の詳細を地域と共有し、連携協力しながら計画を立てたり、参加体制を図る。	情報を共有し、連携した計画を作ることができたか。学校・地域それぞれの防災訓練等に参加できたか。	B	地域と避難時の協力体制を築くために、連携して避難訓練に取り組むことを計画する。 「神島屋」や生徒会の取組では、今後も地域と連携した取組を推進していくが、特定の教員の負担を解消するため、委員会を再編して校内体制を充実させる。	
			ふるさと学習を進めて地域の理解を高め、地域に貢献できる人材を育てる。協働体制を高め、特定の教員への負担の集中を解消する。	行事等への参加者数や学校の取組みと連携してくれる地域、団体、個人の増加。地域を理解し、愛着を持つ生徒の増加。			
4	学校行事や部活動への参加状況は良好である。行事では、指示されたことはできるが自主的に企画・運営する域には達していない。部活動では高い目標を持ち、意欲的な活動を続ける部が多い。	学校行事、生徒会活動が自主的に運営されているか。 部活動への積極的な参加、活性化が図られているか。	学校行事、生徒会活動への積極的な参加を促し、自主的運営を指導する。	生徒がどれだけ積極的に参加、運営できたか。	B	すべての教育活動を通し生徒の自主性を尊重し、帰属意識を高める指導をする。部活動の充実度と満足度を維持しながら、職員の多忙化を解消するために、効率的な計画と運営を行っていく。	
			部活動への積極的な参加を促す。	部活動加入者数と活動状況、活動成果がどうだったか。			

学校関係者評価
令和4年2月10日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・進学状況が8割を占める現状を鑑みると、進路目標の早期確立を促し、その目標が実現可能となる学習習慣の確立と、進路指導が大変重要であり、引き続き指導をお願いしたい。進学8割という現状に見合った体制が整備されているのか、進路実績を踏まえた上での見直しも必要かと思う。 ・学校訪問を通じ、挨拶ができる生徒が年々増えてきていると感じており、生徒が落ち着いて学校生活を送っていることが伺える。ただ、指導件数が増えたことについて、原因究明を行い、その対策を講じ、指導をお願いしたい。 ・地域との連携については充分達成できている。それは、神島屋の活動に感化されて入学を希望する生徒が多い状況があり、創意工夫をこらした多種多様な活動は、今や地域が参考にしたい、連携したいと願う活動となっているからだ。ただサポートする教員の負担が大きいため、継続した活動のために、早期改善が必要である。PTAを巻き込んだサポート体制も検討されているのではないかと。 ・SNS上のトラブル対応は、いじめと同様、顕在化したときには深刻化していることもあるので、事前に専門家の協力を仰いで生徒及び教職員の対応も含めた指導を受けてはどうか。 ・近年の卒業生からは、他人とのコミュニケーション力が低下していることを感じる。コミュニケーション力を高めることは、よりよい人生を歩むためにも重要なので、課外授業などでできればと考える。 ・人間関係構築が苦手な生徒は中学校でも同様にここ数年増えている。 ・学校運営協議会の中で、他校で実績を上げている教育事例があれば紹介いただき、本校なりにアレンジすることを検討してはどうか。 ・授業参観は、高校生の授業への取り組みがよく分かりよかった。1度に全学年ではなく各学年1回ずつでもよいのではないかと。